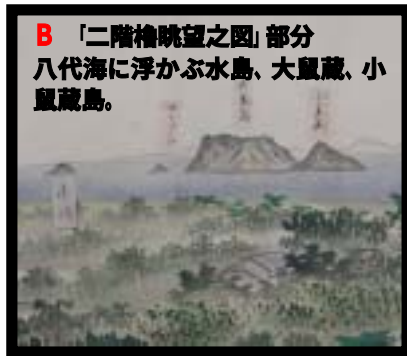


松井文庫常設展示室 「江戸時代の八代」

7月12日(火)～8月28日(日)

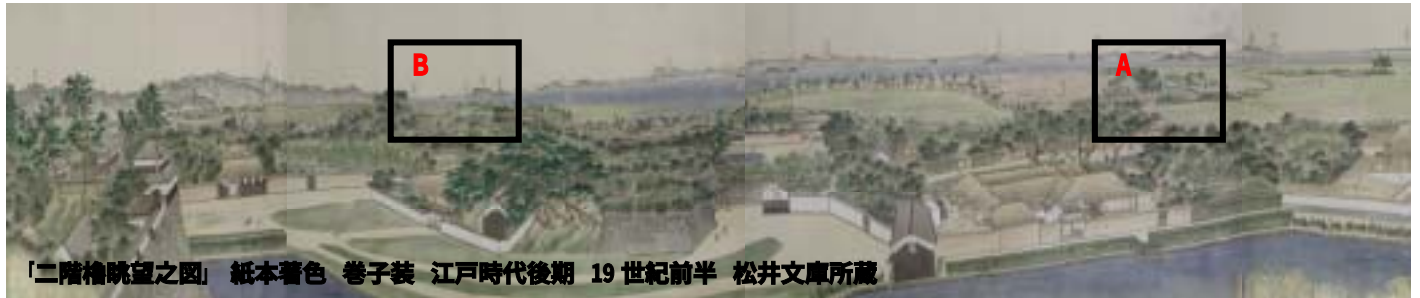
松井文庫所蔵品の中から、江戸時代の八代を描いた作品を展示。150～200年前の八代の風景を見ることができます。



B 「二階櫓眺望之図」部分
八代海に浮かぶ水島、大蔵蔵、小蔵蔵島。



A 「二階櫓眺望之図」部分
松浜軒の様子。遠くに高島、大島、雲仙岳が見える。



「二階櫓眺望之図」 紙本着色 卷子装 江戸時代後期 19世紀前半 松井文庫所蔵



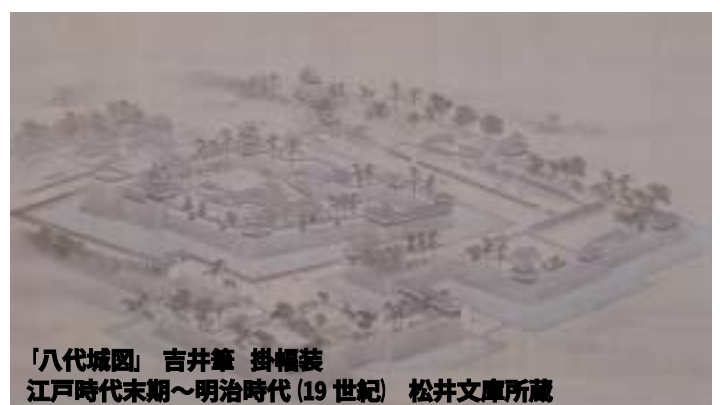
二階櫓 (小天守) 跡から見た現在の様子



「八代城郭図」 紙本淡彩 卷子装
江戸時代後期 (19世紀前半) 松井文庫所蔵

▲「二階櫓眺望之図」は、八代城本丸の西側中央(やや北より)にあった二階櫓(または「小天守」ともいう)から見下ろした眺望をパノラマ状に描いたものです。

写真の場面では、本丸の南西にあった三の丸の様子がよくわかります。ここには、米を貯蔵する米蔵(「永御蔵」と呼ばれた)がありました。また、遠くには松浜軒や塩焼きを行っている海浜、干拓によって陸続きとなる前の島々の様子が描かれており、当時の八代の様子を知る上で貴重な作品です。



「八代城図」 吉井筆 掛幅装
江戸時代末期～明治時代 (19世紀) 松井文庫所蔵

▼「道中風景図巻」は、安政3年(1856)松井10代目章之が江戸に参府した際、同行した絵師杉谷雪樵に描かせた全12巻に及ぶ絵巻物です。

第1巻の冒頭に描かれた「八代松原口」の図は、現在の毘沙丸町辺りから出町方向を眺めたもので、中央に光徳寺の大きな屋根が見えます。出発したのが春だったので、田畑にはレンゲ草が咲いています。



「道中風景図巻」全12巻のうち第1巻「八代松原口」 杉谷雪樵(1827～95)筆
紙本着色 卷子装 江戸時代末期 (19世紀中頃) 松井文庫所蔵